

編集・発行責任者；木下耕一 〒157-0066 東京都世田谷区成城 8-24-1 - A-201
Fax&Tel 03 - 3482 - 5257 / E-Mail ; kino-coh1@amy.hi-ho.ne.jp

『僕がたましるの郷』を思い描いてみたい

あけましておめでとございます。

今年は、どんな年になるのでしょうか？

このファクス・ニュースは、かたつむりやろう重複の仲間たちを取り巻く様々な問題や情報をより大勢の人に伝えていきたいと思い始めました。

実は、こうした趣旨も曖昧なままスタートし、年末年始の休みの間に資料整理をするともに、考えに考えてようやく方向性が見えてきたのです。

やっと4号ですが、思いがけず「地元自治会の同意が得られた」とのニュースが届き、これからの活動に微かな希望の朝日が差し込んだ新年の気分でした。

前号でお知らせした十二月二十日に開かれた『かた

つむり事業報告会』で花田さんから説明のあった「たましるの郷建設に向けての五つのステップ」を考えると本年の一月三月には、地元自治体である青梅市の施設建設特別委員会（審議会？）が第一ハードルとして待ち受けています。

そして、同時に、どのようなたましるの郷を作っていくのか？あるべきたましるの郷の姿を描き出す『開設委員会』の設置を進めていかなければなりません。

これには『施設』作りの専門家の意見が尊重されるのはもちろんのことですが、我々ボランティアの立場からも学習活動を進め、意見を言える力を培っていく必要性を感じています。

また、かたつむりの仲間たちがどんなたましるの郷を望んでいるのか？彼らの声がストレートに施設作りに反映されるような組織作りを考えていかなければならないのではないかと思います。

それは、当初『社会福祉法人化運動』として始められた東京のたましるの郷後援会活動とろう重複者共同作業所かたつむりとの接点をどのように求めていくのか、という問題でもあると思います。

施設ができる事によつて社会福祉法人格を取得できる事は東京のろうあ運動にとつて重要な問題ですが、施設作りは単なる箱づくりではありません。立派な建物よりも、そこでどんな労働や生活が営まれるのか、仲間たちや親たちがどんな人生を送れるようになるのか、そして、それを支える人の和をどう深め広げていくのかという理念・理想なくしては、これからの施設作り運動は進まないと思います。

なんか、政治家の所信表明演説みたいになつてしまいました。

お正月休みに考えた事は、

僕一人では、結局かたつむりに対して何もできないんだということ。（謙虚になる）だから、

団体やサークルといった枠にとらわれずに、いろんな人と出会うて、僕の思いをたくさん伝えて、大勢の人と一緒にかたつむりを応援するんだということ。（緩やかなネットワークづくり）

そして、最も大切な事は仲間たちを中心にこれからの活動を組み立てていく、かたつむりの現場から僕自身を育てていきたいと思つています。本年もどうぞよろしく願ひします。